

真庭なりわい塾の目指すもの

真庭なりわい塾

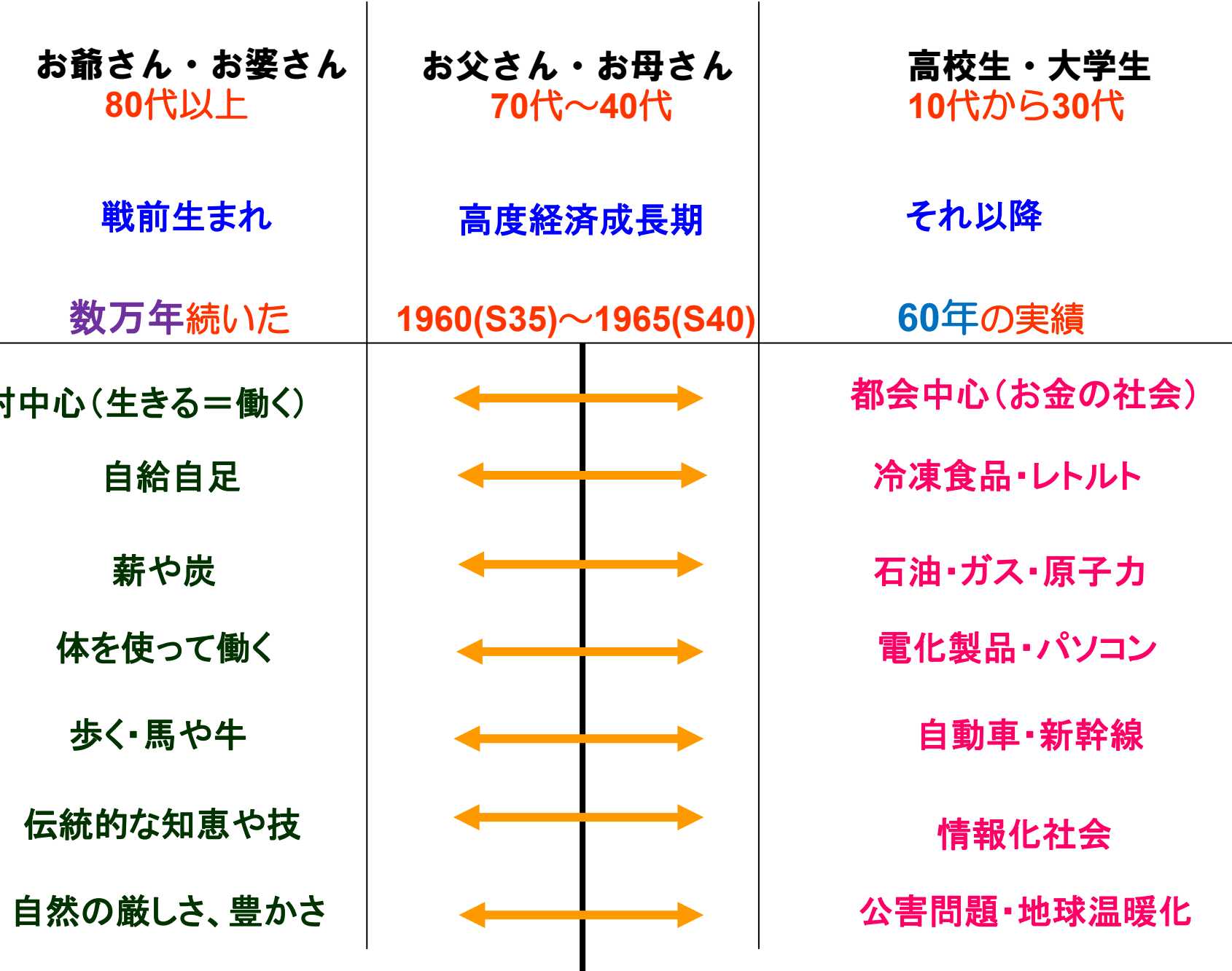
澁澤 寿一

(2023/6)



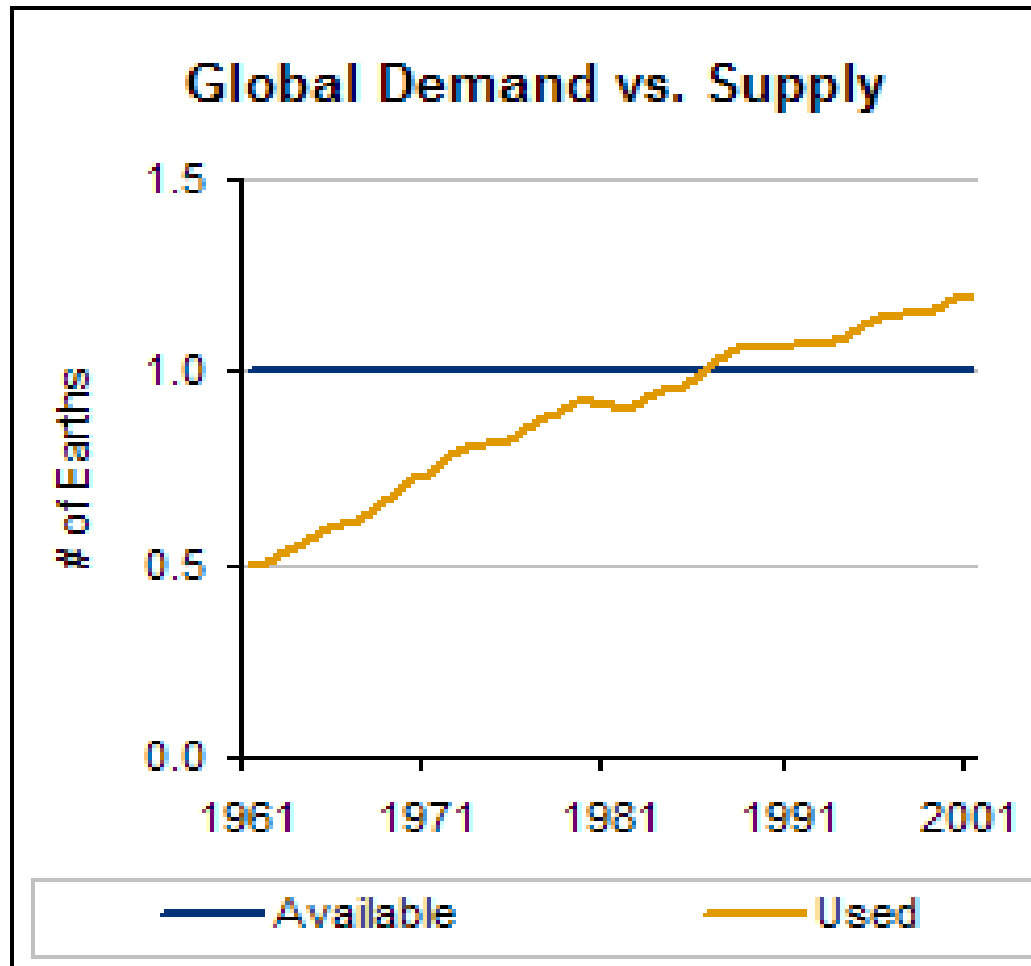
聞き書き甲子園

2002年～現在



エコロジカル・フットプリント

—地球の足形(自然の成長量をどれだけ人間が使っているか)—



80億の人間が、
日本人と同じ暮らしをすると、
地球が、3個必要

暴走をはじめた資本主義

(1990年以降のグローバル経済)

コミュニケーションの道具としての「**お金**」、世界中で通用する、**公平で共通な「道具」**



公平だが限度がない(**欲望の抑制が効かない**)

バーチャルな貨幣(株、為替差益、債券...)の増加・パソコンの普及

ウォール街経済(**貨幣が貨幣を生む仕組み**、リスクの証券化)

实体经济の70~100倍のバーチャルなマネー



地球は有限、75億の人口の生存を貨幣は担保できるか？

「**いのち**」や「**持続可能性**」を「**お金**」で保障できるか？

そもそも、**エコロジー**(自然)あつての、**エコノミー**(経済)

世界の**富**の**50%以上**を**1%の人**が持つ(トランプ現象・不公平感)

子供たちの未来に関する予測

子供たちの**65%**は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く

キャシー・デビッドソン氏（ニューヨーク市立大学大学院センター教授）

今後10～20年程度で、約**47%**の仕事が自動化される可能性が高い

マイケル・A・オズボーン氏（オックスフォード大学准教授）

私たちの知る唯一つの「持続可能な社会」

それは、「先祖」から続く、今の「あなた」



奈良県川上村、吉野地方の250年生の杉林

労働の**意味**の変化(戦後70年～現在)

「 **GDP**を向上させるための労働 」

(経済的価値のための労働)

経済的価値を重視して生きることが**幸せ**、という価値観。

戦後、復興のための経済を建て直し、生産性を上げることが不可避。



専業主婦は労働ではない、育児も、介護も、重要な労働とは言えない。

年収は高い方が幸せ。どの会社に勤めているか、が社会的ステイタス。

大企業の方が中小企業より大切で社会的価値が大きい。

費用対効果で表せないものは価値ではない・・・ **高度経済成長期の論理**

(現在～これからの20年)
「 **生きる意味を問う労働** 」
(**meaning of life**)

地に足が付き、コミュニティの中で**必要とされる**。

自然の中で、その**恵み**を得ながら、**必要最低限のモノ**を持つ暮らし。

多くの**人**と、**世代**がつながっている社会を実現する。

お金より**共感**や**協働**。共感できなくても、地域で**共生**(自治)。

Do より **Be** が大切。働くことは、生きること。

お互いが持つ**弱み**を許容し、そこから社会づくりを考える・・・

人生は、「**職業選択**」ではなく「**生き方づくり**」

地方創生の本質

－ 農山村と都市の共生モデル －

都市の問題は、都市だけでは解決できない。

農山村の問題も、農山村振興策だけでは解決できない。

日本の問題も、グローバルマーケットだけでは・・・

⇒ **環境・経済モデル** + **生き方のモデル**
(自然共生社会づくり) (新しい価値観づくり・人づくり)

「未来の社会」「幸福」「生きがい」

皆で考え、実践する。**地域を創生**するには、まず**「人」**

「真庭なりわい塾」

地域とは何かー集落の歩き方

風景を読み解く

「地元学」

A misty mountain landscape with a green field in the foreground and a line of trees. The text is overlaid on the image.

自然は寂しい

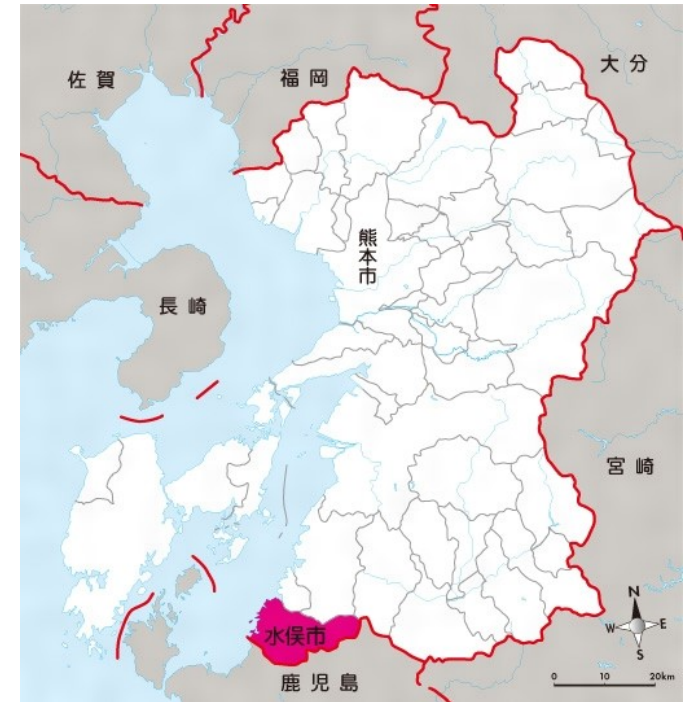
けれど、人の手が加わると、

あたたかくなる。

そのあたたかなものを求めてあるいてみよう

宮本 常一

地元学の誕生—水俣市—



水俣病

水俣病を生んだもの、「近代文明」(有機水銀)

水俣病が産んだもの、「差別」「社会の分断」

(福島原発被害、コロナ禍、学校のいじめ、被差別部落と同じ構図)



水俣のピエタ像

→裁判と金銭補償では

解決しない!

水俣病認定申請患者協議会会長

緒方正人

「地元学」を生み、
環境都市を宣言し、

「舫い直し」

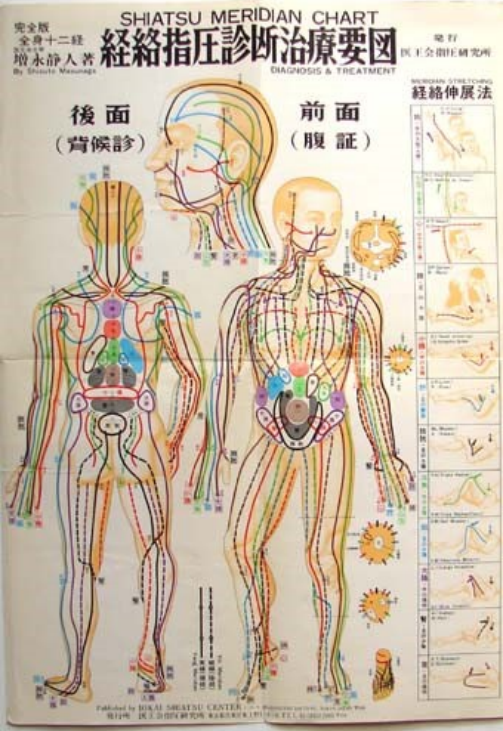
(もやい なおし)

人間関係をつなぎ直す。人と自然をつなぎ直す。

そして、世代と世代をつなぎ直す。

(吉本哲郎)

水の「経絡」



—地域の人と集落を歩く—（地元学）



集落の成り立ち（つながり）と、
地域に入る**心得**（作法）を、
地域に触れて学ぶ。
地域の、**景観を読み解く**。



1. 目的

中山間地のそれぞれの集落は、どのような**自然条件**の中で、
どのような**社会の変化**の中で、どのような**知恵**をもって、
それぞれの時代に**暮らし**をつくってきたのでしょうか。

時代は1960年前後、と現在の対比。

上皇ご夫妻ご成婚・・・1959年

東京オリンピック、東海道新幹線開業・・・1964年

燃料革命前、高度経済成長以前。

石油と農業機械に依存しない時代、

農業ではなく、農的暮らしの時代、

集落はどのような資源と人で成り立っていたか。

その延長に現在があり、未来を考えるヒントがある！

そんな地域の風土や文化、生活、歴史…

人々が今につないできたものを体感する。

「食」と「農」意味の変化

60年前までの「食」と「農」

食 = **生命** (いのち) そのもの
自分の身体をつくり、
生かす。

農 = **生きる** という行為。

(身土不二、アフリカに農民はいない)

現代の「食」と「農」

食 = **お金** で **栄養素** を購入し、
摂取する。

..... (分離)

農 ≠ 農をベースとした産業 (農業)

お金 を得て生活をまかなう。

2. 調べるもの

水（水源、水路、川、谷など）、

光（日照時間、陽射しなど）、

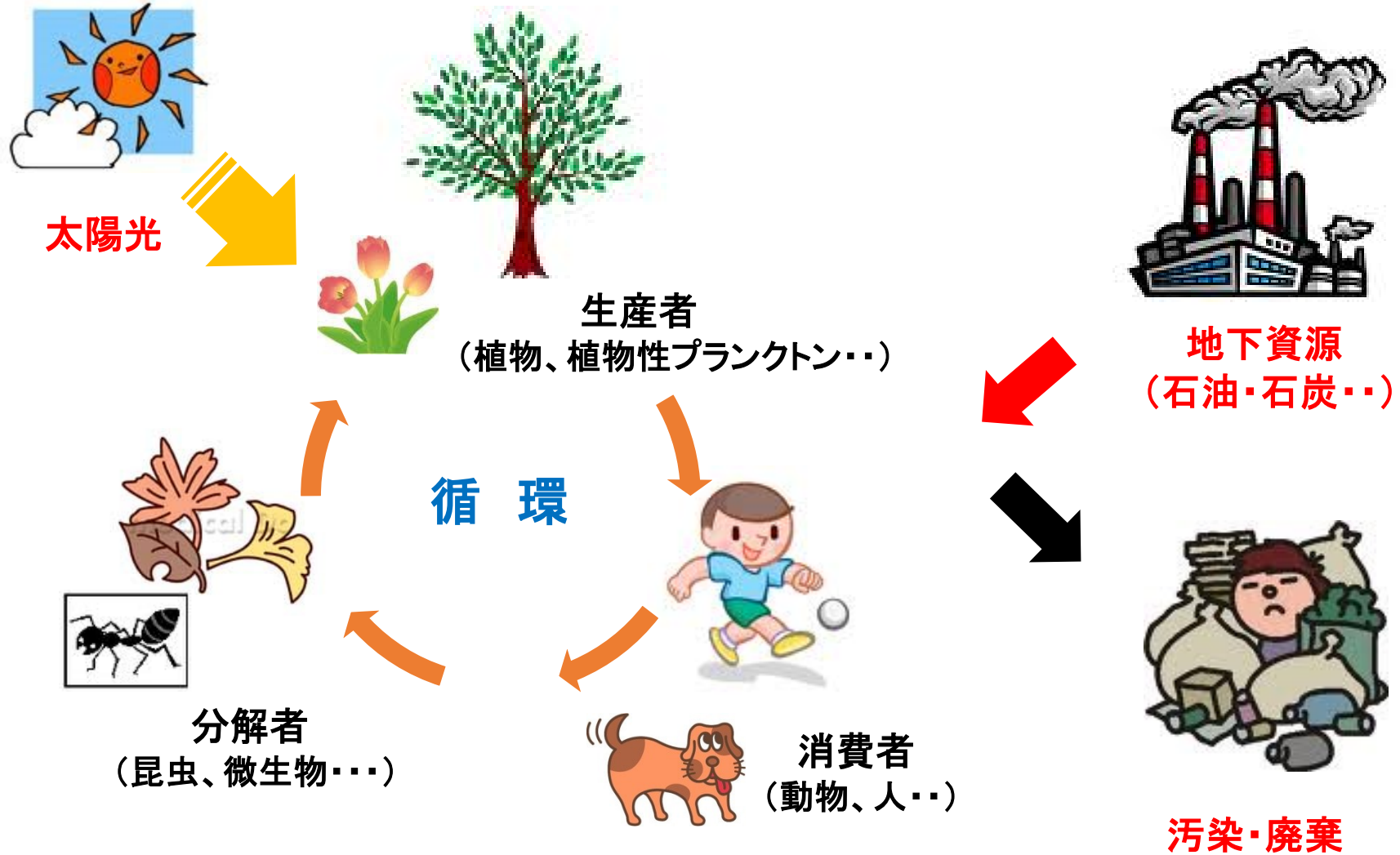
風（強さ、季節、風の道など）、

土（地形、地質、地味など）、

生き物（植物、動物、魚、獺、食害、利用、貯蔵など）

神様・心（神棚、石仏、信仰、有り難いもの、祈り、祭りなど）

地球生態系 —現代の社会とは—



産業（日々の生業、稼ぎ、自家消費など）、

食べ物（種類、日常とハレの日、調理、素材など）、

家（種類、材、利用など）、

道具（種類、材、加工など）、

衣服（材料、機織りなど）、

薬（調達、自然素材など）、

その他 なんでも、

古いもの、新しいもの、興味をもったもの、全部！

3. 心得

- **先入観を捨てて聞く**・・・とにかく地元の人のお話を聞いて、質問し、メモをとりましょう。
民俗学の知識や、自分の経験を押し付けないように。
- **名所、旧跡調べではありません**・・・生活の場に当たり前にあるもの、あったもの、人々がどうやって生きてきたのかを調べましょう。
- **対等な立場で聞く**・・・子供たちにも同じ目線で。
- **具体的な内容を聞く**・・・
「農業はどうですか」という一般的な質問ではなく、「田植え はいつか」、「茶摘みはいつ頃からか」、「この野菜は地元では何と呼ぶか」、「この草は何に使っているか」など、**具体的に**聞いていきましょう。

4. まとめ作業

- 模造紙に集落ごと、**タイトルをつけて「地域マップ」**をまとめます。

フィールドワークで気づいたこと、集落の人々が大切にしていたことを書き込み、手書きのイラストなども加えて、仕上げていきます。

また、発表で投影する写真は整理して、5～10枚をピックアップしてください。

- 出来上がった「地域マップ」には**過去と現在**が混在します。

その中から10年後の**未来**も想像してください。その集落の人々が10年後に、どんな生活を営んでいるか。何を大切に思い、何を未来につなぐのか。

あなたはどのように関わられるのか、地元の方も交えて、話し合えれば素敵です。

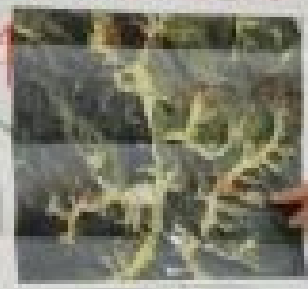
- 「地域マップ」は、各グループごとに、発表をしていただきます。



畑と祭り+蛸と

日付: 2017年10月14日(土) 心づもる秋展
会場: 京都府立総合資料館 1階 展示室
時間: 10:00~12:00
講師: 山本 由美子 (京都府立総合資料館 学芸員)

じんばところ?



大塚 由美子
じんばとこ
+ 2017年10月
4日(土)

京都府立総合資料館
展示室
弘法寺

じんばとこ
+ 2017年10月
4日(土)
30~40分

展示室
自然史

寺・まつり

「慈眼寺」

- ・ 寺名
- ・ 住所
- ・ 祭日
- ・ 祭神
- ・ 境内
- ・ 参拝時間
- ・ 交通
- ・ 問い合わせ先

5. 最後に

- フィールドワークを通じて、参加する私たちは、地元の方にお世話になり、
沢山のものをいただきます。

みなさん、それをどうしたら、少しでもお返しができるか、ぜひ考えてください。

一緒に未来を語ること、長い友情をつくること、何度も訪ねること、共同作業に参加すること・・・いろいろありますね。

参加者にとっても、地元の方にとっても、この出会いが価値あるものとなりますように。



すべての生命は、多様でありながら、
一つにつながっている。